

(2)その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付け(ISI citation など)など。* ISI データのない場合は、可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
特筆すべき教育活動	<p>1. 毎年度、公共政策大学院の授業科目である「公共政策大学院ワークショップ」において、地域の自治体等が直面する課題に関して教員・学生一丸となって考究し、政策提言を最終的に取りまとめた上、実際に当該自治体等に呈出している。平成18年度のテーマは「地域における地球温暖化対策(仙台市を事例として)、地域資源活用化のための地域金融機関及び金融行政の課題と将来像」「21世紀東アジアグランド・デザイン構築における日本の役割」に関する政策提言、地方都市の中心市街地活性化及び地方都市における産業廃棄物の適正処理対策である。このような特色ある教育の成果を地域社会に還元する試みについて、今後も工夫を重ねてゆきたい。</p> <p>2. 21世紀COE拠点研究プログラム「男女共同参画社会の法と政策」の研究成果を生かして、平成17年度より、全学教育科目として「ジェンダーと人間社会」を開講している。「ジェンダー」の視座から、性に基づく不合理な差別のない社会、男女が自律して能力を発揮できる社会の実現などの課題について、14回こわたり、社会学・政治学・法学・教育学等の多角的視点に立った多彩な講義が行われ、多数の学生が聴講し、好評を博している。</p>	
特筆すべき研究活動	<p>21世紀COE拠点研究プログラム「男女共同参画社会の法と政策」については、平成18年7月4日及び14日に、東北大学文系総合研究棟において国際セミナー「市民参加 多様性とジェンダー - 比較的展望 日本・カナダ・フランス-」を開催し、同年11月13日には東京都渋谷区の日仏会館において、COEシンポジウム「オランプ・ドゥ・グージュ研究の新天地」を開催した。さらに、同年12月18日には、仙台国際ホテルにおいて、日本学術会議主催世界展開・東北地区フォーラム「少子高齢化社会と男女共同参画」を後援した。</p> <p>平成19年7月29～31日には、仙台国際センターで東北大学創立100周年記念事業21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」主催国際シンポジウム「ジェンダー平等と社会的多様性 理論と政策の架橋をめざして」を開催し、海外から9名の講演者を招聘し、国内からは、都道府県議会議長(前内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)及び上野千鶴子東京大学教授といった著名な講師を招き、参加者は3日間で約300名にのぼり大成功を収めた。これらの成果及び諸外国と日本の男女共同参画政策と基礎理論に関する調査・研究の結果を、東北大学21世紀COE拠点研究プログラム「男女共同参画社会の法と政策ジェンダー法・政策研究叢書」(全12巻)の第10-12巻にまとめる予定である。</p> <p>平成19年度は同プログラムの最終年度であるため、基礎理論と政策との架橋を目指して研究種加幅を拡大しつつ同時に成果の集積を図るよう、着実に歩を進めることとしている。</p>	
特筆すべき社会貢献活動	<p>1. 公共政策大学院ワークショップについては、「特筆すべき教育種加」1のとおり。</p> <p>2. 東北大学無料法律相談所は、昭和3年発足という伝統を誇る法学部学生の自主団体であるが、本研究科(教員の指導体制およびサークル室の提供)および法学部同窓会(財政的支援)が積極的にバックアップし、学外の一般市民を対象とする法律相談(無料・時間制限も特になし、年間80件程度)を通じて、多大な社会貢献を果たしている。夏期休業中には、東北6県のどこかに赴き、「出張相談」も実施。</p> <p>3. 東北大学法学部模擬裁判実行委員会は、法学部生による裁判劇の制作・公演を通じて、市民への法的知識の普及に努めると共に、社会問題を市民と一緒に考えることを目的とする自主団体である。昭和27年に第1回公演を行って以来、市民の間にもすっかり定着(公演には約1000人の来場がある)し、学生の手で、法と市民をつなぐ重要な社会貢献の場になっている(本研究科・法学部同窓会の支援は、基本的に無料法律相談所の場合と同様)。</p>	

